

文章理解モデルに関する次の文中のア～ウに入る語句がいずれも妥当なのはどれか。

キンチュ（Kintsch, W.）らは、文章理解の結果、読み手の心内に構築される意味の表象を、読んだ文章自体についての命題的な表象である「ア」と、読み手の知識構造に読解した情報が統合された「イ」とに区別した。なお、「イ」は必ずしも言語的表現をとるわけではないが、読み手はこれを心的に操作することで、テキストに明示されていない事柄の推論や他の場面への応用が可能となる。このような学習を「ウ」と呼んでいる。

| ア          | イ        | ウ         |
|------------|----------|-----------|
| 1. テキストベース | 状況モデル    | テキストの学習   |
| 2. テキストベース | 状況モデル    | テキストからの学習 |
| 3. テキストベース | 意味ネットワーク | テキストの学習   |
| 4. 状況モデル   | 意味ネットワーク | テキストからの学習 |
| 5. 状況モデル   | テキストベース  | テキストからの学習 |

バーコウイツ (Berkowitz, L.) の攻撃行動についての理論に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 攻撃への本能的なエネルギーが自動的に蓄えられ、環境内に行動を誘発する刺激がある場合に固定的なパターンとしての攻撃行動が生じるとした。
2. 攻撃を喚起するものとして欲求不満に着目し、現実欲求不満を解決することではなく、欲求不満を発散させるために、欲求不満が一定レベルに達すると攻撃行動が生じるとした。
3. 他者からの否定的な印象を拒絶し、男らしさを印象付けることによって社会的アイデンティティを回復するために、攻撃行動が生じるとした。
4. 欲求不満によって生まれた怒りなどの不快感情によって、攻撃的動機づけが高まり、攻撃的意味を帯びた手がかりに接したときに攻撃行動が生じるとした。
5. 罰によって他者の態度や行動を自分が意図した方向へ変化させるために、人は攻撃や威嚇という手段を用いるとした。

リーズン（Reason, J.）のスイスチーズ・モデルに関する記述として妥当なのはどれか。

1. 重大な傷害事故，軽い傷害事故，傷害のない事故が1対29対300の比率で発生しているとして，重大な傷害事故を防止するには，傷害に至らなかった数多くの事故の分析をし，そこに見出される問題を改善する必要があるとした。
2. 人間の行動・判断のパターンを三つの段階に分類し，経験を蓄積して作業に習熟するにつれ，知識ベース，ルールベース，スキルベースへと変化することを示した。
3. 医療事故の発生に関して，患者への処置や治療の業務に関する失敗が発見・訂正されないままスタッフに引き継がれると，引き継がれた者は失敗に気付くことが困難になり，より危険が増幅されていくとした。
4. 事故の発生を防ぐため，安全のための防護が幾重にも設けられているが，一つ一つの防護には欠陥があるため，偶然にも防護の穴が重なったときに，危険がその穴を通り抜けて重大事故に至るとした。
5. 作業現場において，作業者の無理や無駄を減らし，作業能率の向上や作業者の軽減を図るために，身体の使用，作業現場の配置，道具・設備の設計の三つの側面についての指針を示した。